

平成20年7月29日

部局名 学術文化財課・美術館

件名 県立美術館開館30周年記念作品の購入について

県立美術館は、昭和53年11月3日に開館し、本年開館30周年を迎える。過去、節目の年には記念絵画等の作品を購入し、本県芸術文化の拠点としての機能向上を図ってきた。

(参考)過去の周年事業での購入作品

周年	作家	作品名	購入額
10周年 (S63)	ライスダール	ベントハイム城の見える風景	150,000千円
15周年 (H5)	クロード・ロラン	木を伐りだす人々 ほか	220,163千円
20周年 (H10)	ミレー	鶏に餌をやる女	312,900千円

経緯

平成19年7月から平成20年2月末までの間、ミレーをはじめとするバルビゾン派作品について国内外の著名画廊12社に対して市場調査を行った。結果、9社から60点の調査結果を得た。

平成20年2月議会において、知事が、美術資料取得基金を活用してミレー、バルビゾン派の作品を新たに購入することを表明した(2月18日)。

平成20年7月までに3回の美術館専門委員会を開催。調査結果をもとに、購入候補作品について県立美術館専門委員会委員の意見を聴取した。

30周年記念作品として、次の作品を購入することとした。

内容

	作家名	作品名	規格等	価格評価 ¹	市場価格 ²
1	ジャン＝フランソワ・ミレー	眠れるお針子	油彩 1844-45年 45.7×38.1cm	1名 130,000千円	86,760千円 国内画廊
				1名 120,000千円	
				1名 100,000千円	
2	ジュール・ブルトン	朝	油彩 1888年 101.6×76.2cm	2名 100,000千円	86,100千円 国内画廊
				1名 90,000千円	
3	ジュール・デュプレ	カケイ 海景	油彩 1870年頃 51×63.5cm	1名 17,000千円	10,000千円 国内画廊
				1名 15,000千円	
				1名 12,000千円	
4	アンリ＝ジョセフ・アルピニー	陽のあたる道	油彩 1875年 49.3×76.2cm	1名 17,000千円	11,740千円 国内画廊
				1名 15,000千円	
				1名 13,000千円	

1...消費税・地方消費税除く 2...消費税・地方消費税含む 合計 194,600千円

作品選定理由(作品の概要)

詳細は別紙のとおり。

いずれの作品も”ミレー・バルビゾン派の優れた作品を収集するとともに、それらをより広く深く理解できるよう、彼らが影響を受け、影響を与えた西洋絵画、特に風俗画、風景画の優れた作品を収集する”という美術館の美術資料収集方針に沿うものである。

加えて、平成21年1月6日から一般公開されるミレー・バルビゾン派作品に特化した「ミレー館」での展示構成において欠かせない作品群でもある。

購入予算

山梨県美術資料取得基金により購入

その他

- ・平成20年9月県議会に動産購入案件提出
- ・平成21年1月5日のミレー館オープンに併せて公開(一般公開は1月6日から)

学術文化財課 企画担当 055-223-1790

美術館 学芸課 055-228-3322

作品写真の電子ファイルが必要な場合は、「kagawa-agzv@pref.yamanashi.lg.jp」または「yanagisawa-uzn@pref.yamanashi.lg.jp」に電子メールをお送り下さい。



ジャン＝フランソワ・ミレー

(眠れるお針子)

油彩・麻布 1844-45年 45.7×38.1cm



ジュール・ブルトン

(朝)

油彩・麻布 1888年 101.6×76.2cm



ジュール・デュプレ

〈海景〉

油彩・麻布 1870年頃 51×63.5cm



アンリ＝ジョセフ・アルピニー
《陽のあたる道》
油彩・麻布 1875年 49.3×76.2cm

30周年記念作品として選定した理由

『 眠れるお針子 』 油彩・麻布 1844-45年
ジャン＝フランソワ・ミレー 45.7 × 38.1 cm

当館では初期から晩年にかけてのミレー作品を収集している。ミレーが若い頃に多く手がけていた裸婦や可愛らしい女性を描いた小型の作品は、コレクションの中に含まれていない。本作品は、若い頃のミレーに特徴的な小画面の作品で、家庭内での女性の労働を描いたもの。「お針子」という画題は、ミレーが晩年まで繰り返し描き続けるものであるが、これまで当館のコレクションになかった画題でもある。本作品を加えることで、ミレーの手がけたジャンルの広さを示すことができるだろう。

また、本作品は、1845年にミレーの二番目の妻となったカトリーヌ・ルメールをモデルにしたとされる。そのため、ミレーの生涯を知る上でも重要な作品である。

『 朝 』 油彩・麻布 1888年
ジュール・ブルトン 101.6 × 76.2 cm

当館は、開館以来、ミレーやバルビゾン派の作品を収集のひとつの柱にしている。

ミレーの描いた「農民画」というテーマは、その後の画家たちにも大いに影響を与えた。その影響を受けた者としては、印象派のような前衛的な画家のみならず、保守的でアカデミックな画家たちも多数あげられる。アカデミックな画家たちは、農民の姿をより理想化した姿で描いた。その丁寧に描かれた細部は、見る者を圧倒するほどである。

ジュール・ブルトンは、ミレーから影響を受けて「農民画」

を描いたアカデミックな画家のひとりである。本作品では、農民の少女が朝の光を浴びながら仕事に出かける場面をあらわしている。「仕事に出かける人」という画題は、ミレーも好んで描いたものであり、二人の画家の共通点がうかがえる。

本作品を加えることで、ミレーが確立した「農民画」がその後の画家たちにどのように継承されたのかを、わかりやすく提示することができる。

『海景』 油彩・麻布 1870年

ジュール・デュプレ

51 × 63.5 cm

当館では、ヨーロッパの画家たちによる風景画を数多く所蔵している。バルビゾン派の画家たちは、主にフォンテーヌブローの森を制作の場として選んでいるため、海を題材に描いた作品は少ない。

当館では、ジュール・デュプレの作品を2点所蔵しているが、《森の中 - 夏の朝》(1840年頃)、《森はずれの小川》(1860年頃)のいずれも森を題材としている。しかし実のところ、晩年のデュプレは海景画を多く手がけていることで知られる。本作品はデュプレ晩年の海景画であり、この画家の生涯をたどる上で重要な作品になる。

また、本作品を加えることで、当館所蔵のクールベ《嵐の海》にあるような「海景画」というジャンルがこの時代に多く描かれていたことを、わかりやすく説明することができる。

『陽のあたる道』 油彩・麻布 1875年

アンリ＝ジョセフ・アルピニー

49.3 × 76.2 cm

当館では、バルビゾン派の画家たちの作品を収集している。クールベやバルビゾン派の画家、そしてとりわけコローを崇拝

していたアルピニーも、バルビゾン派の画家のひとりである。アルピニーは、1854年頃からバルビゾンに滞在して、フォンテーヌブローの森を描くようになった。本作品は光と影がかっきりとした明るい画面となっており、この点は1830年代、40年代のコロー作品とも共通する。

バルビゾン村に滞在してフォンテーヌブローの森で風景画を制作した画家は数百人にものぼり、当館で所蔵している画家はその一部に過ぎない。アルピニーもまた当館未所蔵の作家であるが、重要な画家のひとりである。